

今を生きる子どもたち

III

①

貧困と格差の拡大のなかで

厳しい労働条件、予期せぬ妊娠、セックス産業の誘惑
。貧困と格差の拡大のなかでとりわけ女性たちに重く
のしかかる現実を追いました。
(荻野悦子)



カナさん

東北地方のある町で生まれ、この更新の契約社員で6年に育った清水カナさん(24) になります。
仮名IIは、児童養護施設の出身です。今はホテルの宴会場のスタッフとして時給1100円で働いています。1年ごとのスタンプとして時給1100円が決まるのは数日前からと

9時間拘束8時間労働とい
うものの休憩時間は満足にと
れません。月22日出勤でシフ
トが決まるのは数日前からと

中卒で働く契約社員

きには前日ということもあり
ます。休日は保障されていま
すが、前もって次の週の予定
を立てることができません。
力仕事が多く、体力的にもき
ついで、「できれば転職し
たい」というカナさんを中卒
という学歴がしばります。

施設に預けられ

カナさんが物心ついたころ
には母親の姿はありませんで
した。あとで離婚したと聞き
ました。父親と父方の祖父母
との4人暮らし。毎晩、酒を
飲んでは祖父に暴力を振るう
父親は、働いてもすぐにや
め、事件を起こし、刑務所か
ら出てきてはまた入っていき
ました。

当時を淡々と振り返るカナ
さんは、「貧乏で、モノを買
ってもらえなかった。ほしが
りもなかった。給食費の封
筒をみて祖母が『ああ、今月
も苦しいな』って。でも祖父
母は私に『よくしてくれた』と
語ります。

小学校4年生のころ、ある

日突然、「明日から施設だか
ら」と児童養護施設に預けら
れました。理由はわかりませ
んでした。

その後、一度家に戻ります
が、祖母の入院で中学1年の
とき再び施設へ。そのまま中
学を卒業し、「自立」しまし
た。

アルバイトを転々として経
済的にも精神的にも行き詰ま
ったカナさんは、17歳のとき
に祖父母の家に転がり込みま
した。父親は所在不明になっ
ていました。

小学生のころのカナさんし
かみていない祖父母と、施設
で何年も過ごした17歳のカナ
さん。3人の生活は長く続き
ませんでした。半年ほどでカ
ナさんは「私がないほうが
うまくいく」と自立援助ホー
ムに移りました。

養護施設でも援助ホームで
も、セックス産業で働こうと
する女の子たちが身近にいま
した。「単純にお金がほしい
という子もいたし、依存とい
うのか、必要とされている感

みたいなものを求めて入って
いく子もいました」

一日をなんとか

カナさんも、アルバイト先
の給料が出ず、所持金が底を
突きそうになって別のアルバ
イトを探していたとき、セッ
クス産業の情報誌を手にしま
した。「毎日履歴書を書いて
面接しても次の仕事が決まら
ない。もうこれしかないの
か、と」

情報誌を広げて電話する直
前で、カナさんは思いとどま
りました。「ちゃんとした仕
事に就きたいという思いが強
かったからだと思います」と
カナさん。ようやく今の仕事
を見つけて、なんとか1人暮
らしを続けています。

「やりたいことは」と聞か
れて「私には夢がないんで
す」と答えたカナさん。今は
まだ一日一日をなんとか過
していくことで精いっぱい
毎日です。

(文中仮名。つづく)

(4回連載の予定です)